



仕事の達人

プレゼンの達人

久保 啓一
【コミュニケーションデザイナー】

自分の仕事を図解できますか？

全体像をとらえ表現するのは意外に難しい

新設の宮城大学（野田一夫・初代学長）での最初の意欲的4年間が終わった。私自身は教育・研究・進学を3本柱に全力投じてきたが、その過程で仙台や宮城という地域に関わることになり、今後は進学に代えて地域への貢献を3つ目の柱として活動するつもりだ。

さて、地域への貢献の中には自治体職員を対象とした講演や研修というジャンルがある。テーマは様々であるが、東北自治研修所などでの「プレゼンテーション研修」では「私の仕事」を図解するという統一したテーマで3年間研修を行ってきた。

この30代から40代の中堅行政マンを対象とした研修は、東北6県の県庁マン、市町村の行政マンが毎回50～60人規模で受講している。

この研修では2つの意味で大きな成果が上がったと感じている。1つは、図解コミュニケーションという新しい考え方、手法に対する理解が参加者によく深く浸透したこと。もう1つは、行政マンの仕事に関するよく練られた図解が300枚以上集まったことだ。

集まった行政マンの「私の仕事」の図解を見ると、行政のあらゆる仕事の仕組みが浮かび上がってきて、感動を覚えるほどだ。この図解を眺めてみる

久保 啓一（37歳）
1969年生まれ。九州大学法学部卒業。日本放送協会職員を経て、1995年から宮城大学教授。東北大学から同大の教授職・専任教授職研究員に。専攻はコミュニケーションデザイン。ホームページは<http://www.nagano.net/>。

と真面目で能力の高い地方行政マンの顔の中が見えるような気さきでして、理解しづらい地方行政マンの「仕事観」がよくわかる。

この研修の間、いろいろな気づきや発見があった。毎日している仕事なのに、仕事の全体像をつかんでいなかったことを発見して驚く人がほとんどであったり、市民や住民が最初から図解に出てこない人が多かったりすることも、民間企業での研修で消費者が讀み取れないのに対応していた。

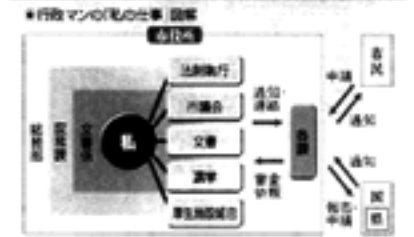
また予算関係の作業だけを図にする人や、ハンコを毎日押している図を描く人もいるなど興味深かった。首脳陣転などの大勢の公共事業の担当者や民

間とのような関係を持っているのか、自分の仕事全体の中でこのテーマはどのような位置づけになっているのか、仕事の目的は何か、どのような成果を期待してやっているのか、など考えれば考えればと混乱してくる。

読者もぜひトライしていただきたい。取り組んでみると発見と驚きと驚きの連続である。仕事の図解が完成すれば、その後のパフォーマンスは約束されたも同然だ。

組織というものは組織図と業務分掌で成り立っているような錯覚に陥っているが、そうではない。組織はそれぞれのビジネスマンの「私の仕事」の集大成なのである。そこには生き生きとした

「市民（消費者）」はとかく忘れろ



間に対しては、「担当者がわかっているのに、市民がわかるわけがないじゃないか」などの同僚からの批判があったのも面白かった。

毎日取り組んでいる数のタネであるにもかかわらず、いざその全体像を把握し図に表現しようとするときに難しいということだ。誰と、どのセクシ

ョンがどの世界が存在する。

「図解 私の仕事」は職場が変わるごとに、また仕事が変わるごとに、書き換えていきたい。個人の仕事史とは、その図解の集合とも評える。

経営者や管理職なら自分の会社やセクションで全員に「私の仕事」をテーマに図解を描かせてみると面白い。仕事に関する理解のあまりの違いに納得する

人が出てくる恐れまである。「そうか、だから毎日トラブルの連続なのだなあ」と合点がいくだろう。

仕事を図解することは顔の中を見せることになる。日々のトラブルの正真正正の原因は仕事観の相違だとわかってくる。そこから出発すればすべての経営者、管理職になれるはずだ。

プレゼンの達人 情報の「鳥瞰図絵師」になれ

コミュニケーションデザイナー
久恒 啓一

日本航空に勤務していた30代の頃、オーストラリアへの新しい路線の開拓のため、当時広報部長だった私は、雑誌の編集者、ライター、カメラマン総勢20人ほどで2週間のプレツアーを企画したことがある。この時、ある実力派カメラマンの行動に強い印象を受けた。ヨットでは必ず一番高い場所には乗っているし、バス旅行では運転席に接近した席を確保していた。

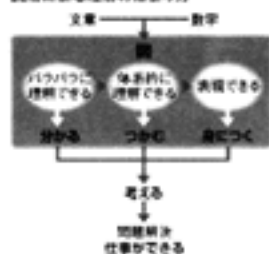
その理由を聞くと、一番見晴らしがよい所で仕事をするのだという答えであり、感心したことを思い出す。

さて、江戸時代に鳥瞰図絵師という職業があったそうだ。風景をまるで鳥になって上空から見下ろすように描くことができる絵描きである。この手法は図解に採られた絵巻物や源流としており、全国の名所をこの手法を使って描いた浮世絵は今も多くの人を魅了している。山や川、都府の建物などが並んでいる順序は正しいのだが、1枚に収めるためにゆがんでいることもこの手法の特徴の1つだ。この図絵は全体を俯瞰しており、位置関係が一望できるので人気があった。

大正時代はこの手法を発展させた青田湖二郎という鳥瞰図絵師がいて、全図の景勝地を描き観光ブームに火をつけた。先月「大正の風景」と称したこの人の展覧イベントを見てきたが、新設

のような鮮やかな色彩と、富士山や見えるはずのない米田、樺太を描くなどの大胆なデフォルメという手法を駆使しているため、世界や日本の中での景勝地の位置がよく理解できた感じになった。この絵描きは見えるはずのない高みに視点を定め、風景を切り取る作業をしたわけだが、どうしてそういうことができたのだろうかと思慮な気持ちで感動に浸った。

図解による理解の深まり方



視点は適度な高さに保つ

私たちが風景を見る時は、山の3合目より5合目の方が風景の持つ意味がよく理解できる。7合目を登って頂上に来ると、眼下に素晴らしい全体景色が広がって気持ちがいい。もっと高い視点はどこか、空を自由に飛んでいる鳥の視点だ。その上はヘリコプターから見下ろす視点。そして飛行機になるが、このあたりになると景色には現実感が乏しくなる。さらに上昇すると人工衛星、宇宙船となり最後は神の目に行き着くだろう。

鳥瞰図絵師という手法は、航空機の登

幅で飛べたとのことだ。しかし、航空写真で風景を切り取ったら分かるかという問題がある。写真や絵は写実をテーマとしているから、事実や実態を描くのが目的だ。だが、実態をそのまま、「科学的」に見せられても私たちは理解できるだろうか。

視点が高すぎても低すぎても私たちにはよく分からない。人間の頭のレベルに若い適度な高さという視点が必要なのだ。鳥瞰という手法で絵を描成し、その中に「情報」を分かりやすい形で提供したから図解というように「図」という言葉が入っているのではない。情報というものはそのままの形ではなく、整理やデフォルメをしないと人間の頭の中には入らないのだ。

鳥瞰図絵の流れば、現代では幸に高視されているカーナビゲーションに一部引き継がれているように思う。社会、経済、情報、そして仕事といった目に見えないソフトな分野は、複雑に絡み合っただけでなかなか全体像や部分同士の関係が理解できない。私たちが日常取り組んでいる仕事とは、その複雑な関係を解きほぐして1枚の図にし、それを改善し新たな図を作り出す作業だとも言える。

鳥の目をもって地上で遠くくぼって動いている鳥の全体像は見えてこない。足は大地についていても鳥の目を持つことが仕事の成功に欠かせない。鳥の目は自分のいる位置を全体の中で相対化してくれる。自分の位置をつかみ、問題を高い次元で解決することが重要だ。

現代のビジネスマンは、情報の鳥瞰図絵師となって、図解の仕事に取り組みたい。

久恒 啓一(くつね けいいち)氏

高成大学非常勤講師(経営学)。最近著「笑で考えれば仕事ができる」(日本経済新聞社)。経歴は nature01my.jp まで。

・私の仕事 図解例①

私の仕事図 法人営業の仕事を図解する

印刷会社の法人販売の企画・営業をしている人の仕事図です。
法人販売をしていると見落としかちな個人のお客様の存在を
図解にすることで改めて認識することができます。

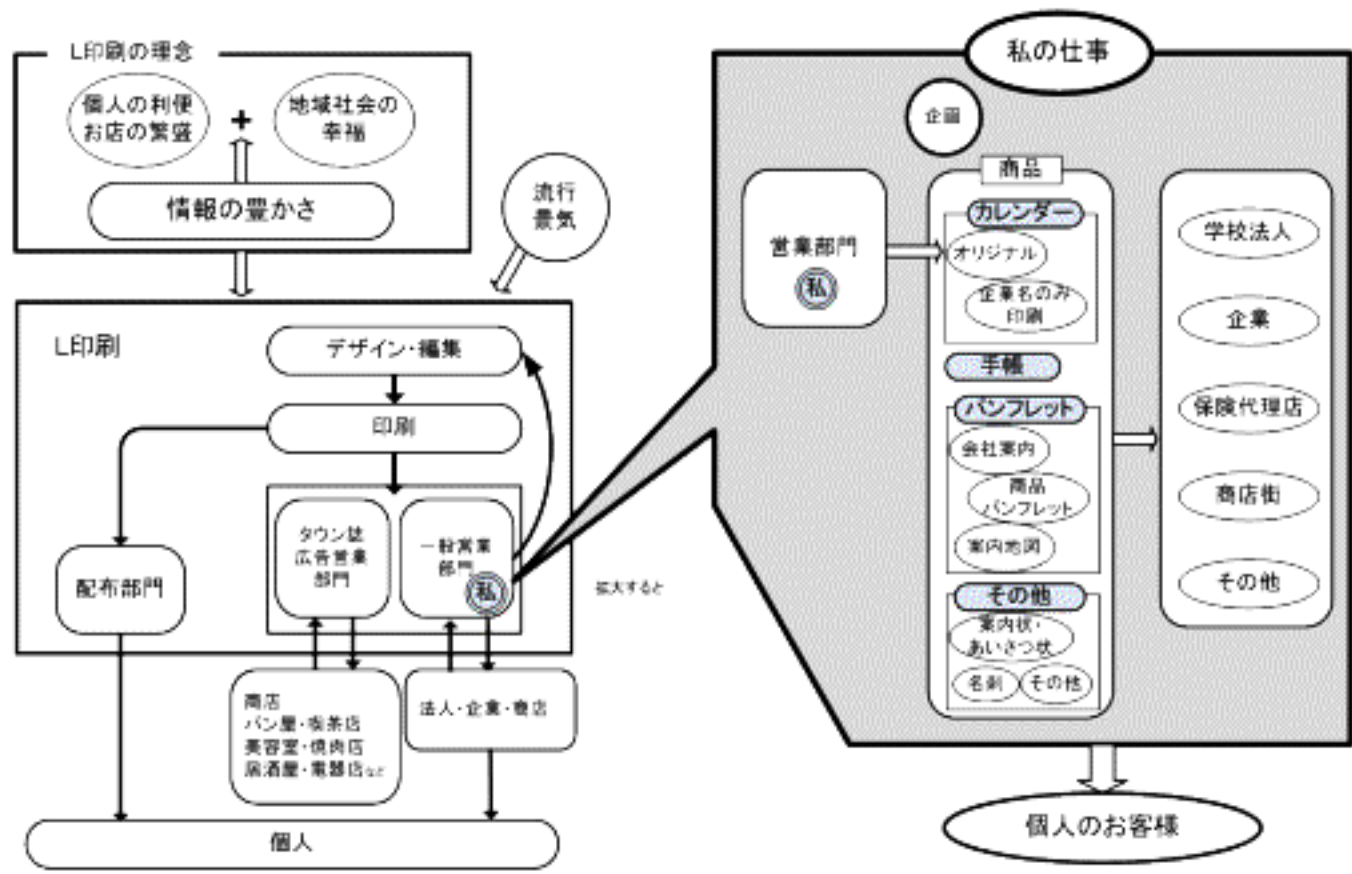
印刷会社で法人販売営業と企画を担当している人の図解です。
この会社では自社でデザイン・編集と販売・配布していることが
わかります。仕事の相手先である「法人・企業・商店」の先に
いる「個人のお客様」まで図解に示すことで、自分が社会に對
してどのような商品を生産・販売しているのかを改めて考える
きっかけになります。

私の仕事 ～出版業は「ライフタイム産業」だ！～

「お客様」は大切
実際に仕事の図解を描く際、ビジ
ネスマンの多くは「お客様」という
言葉が入っていない。「業の範囲」
(P.10参照)のように、ある程度
高い視点から図解をしていれば、
「お客様」が入っていない図解には
ならない。

アドバイス
【私の仕事】の図解出しの中に、商品
名を箇条書き的に載しているところ
が図になります。商品がお客様にと
ってどういう意味をもたらしている
のかを深く、より深い図解になる
でしょう。


お客様にとっての商品とは何
かを握きましょう



・私の仕事 図解例②

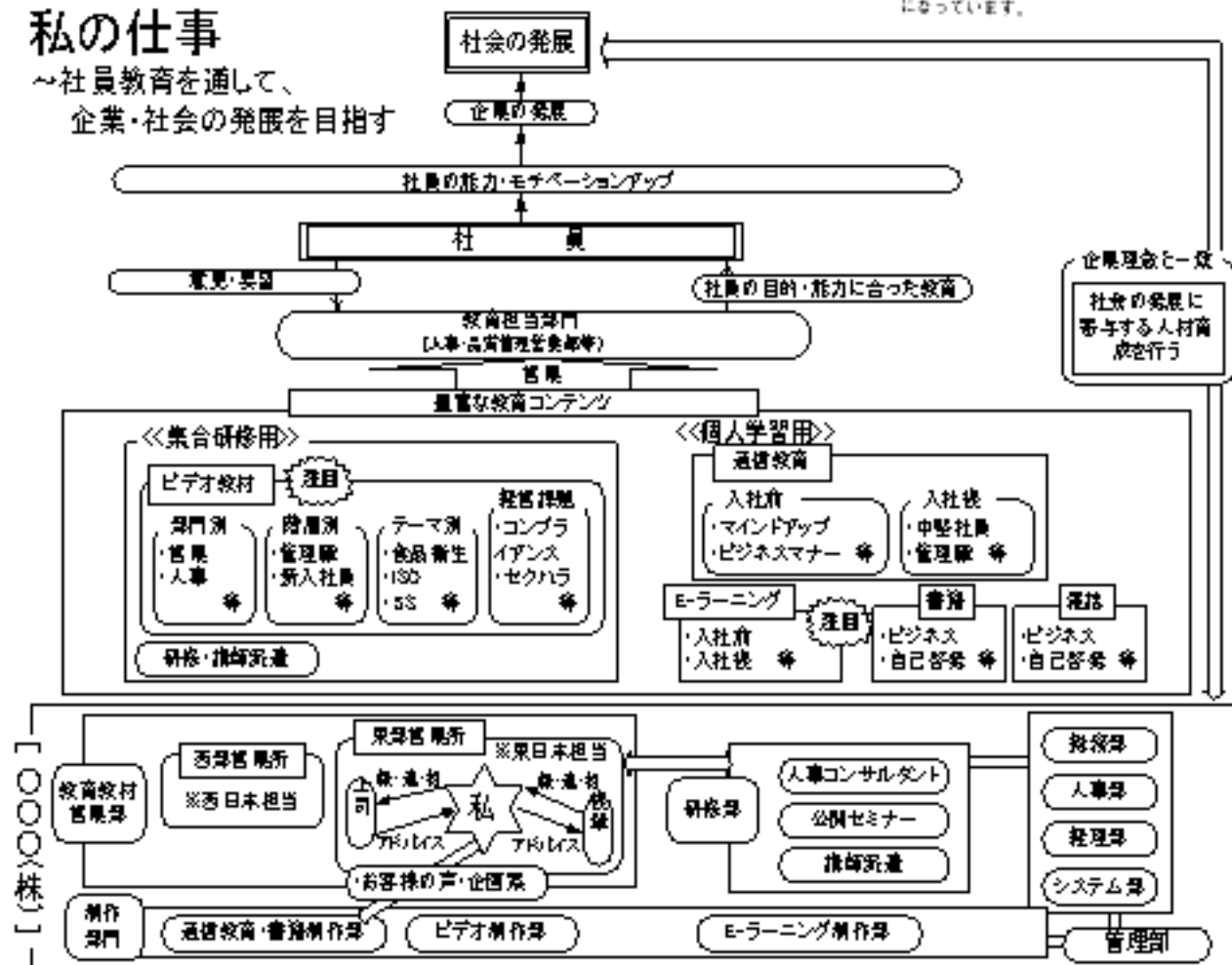
私の仕事 企画営業の仕事を図解する

社員教育の教材を企画している人の仕事図です。
会社の理念と現在の自分の仕事との関係を明らかにすると、
自分のやるべきことが明確になり、仕事にやりがいが生まれます。

企業向けの社員教育教材の企画販売を担当している人の図解です。お客様の声聞き、新しい教育教材の制作の企画提案を行っているようです。自分が実際に行っている日々の仕事と、会社の理念との関係性を図解にまとめています。営業という仕事を通して、企業理念を実現していることが明らかになっています。

私の仕事

～社員教育を通して、
企業・社会の発展を目指す



図解で企業理念を実現する
企業理念とは、企業の使命であり、価値観でもある。その理念を実現するためには、社員一人ひとりが、同じ目標を共有する必要がある。自分が日々行っている仕事を認識し、会社の理念との関係性を自分自身にすることは、社員の行動指針となる。

アドバイス
身体的にバラバラ型になっており、バランスが取れた良い図解です。教育コンテンツの内容が関係性重視なので、読む方も関係性重視の図解に慣れる図に変わって来ます。

教育教材	企画	制作	販売
ビデオ教材	教材企画	教材制作	教材販売
通信教材	教材企画	教材制作	教材販売
Eラーニング	教材企画	教材制作	教材販売

関係性の箇所は、商品の関係性を描き込んでいきましょう

・私の仕事 図解例③

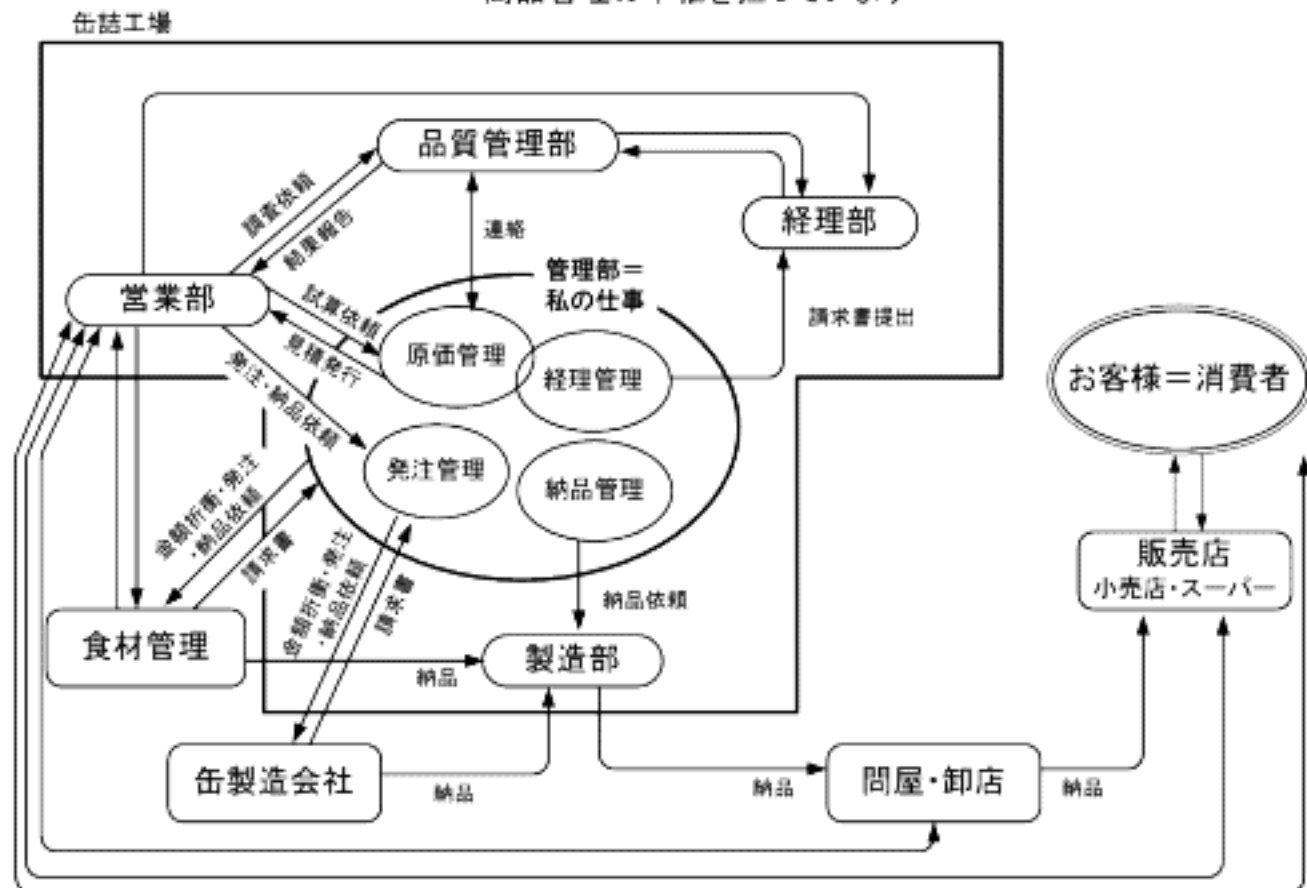
私の仕事図 商品管理の仕事を図解する

食品製造会社の管理をしている人の仕事図です。
日々のルーチンワークではなかなか見えにくい自分の仕事を、
図解すると、全体の中のどの位置にあるのかが明らかになります。

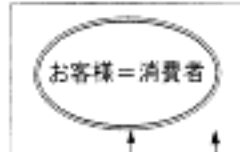
缶詰工場の管理で働いている人の図解です。管理にも経理・原価・発注・納品があり、この会社で商品ができていくうえで必要な仕事の中核を担っていることがわかります。このように図解してみると、いつもはデスクで仕事をしている人でも、その仕事が全体の中でどのような位置にあるのかが明らかになります。

図解で自分の仕事の位置を知る
自分の仕事を図解すると、全体ができていく過程で、自分が全体の流れの中でどの部分を担っているのかが明らかになります。また、どれだけの仕事量なのかを知ることができます。

私の仕事 ～商品管理の中核を担っています～



アドバイス
日々の仕事では見えてこない、顧客の消費者である「お客様」が図の中に入っていることは必ずしも正しいです。自分の仕事図の中に「お客様」という言葉を入れるだけで、視野がぐんと広がります。



「お客様」は必ず入れましょう

私の仕事 図解例④

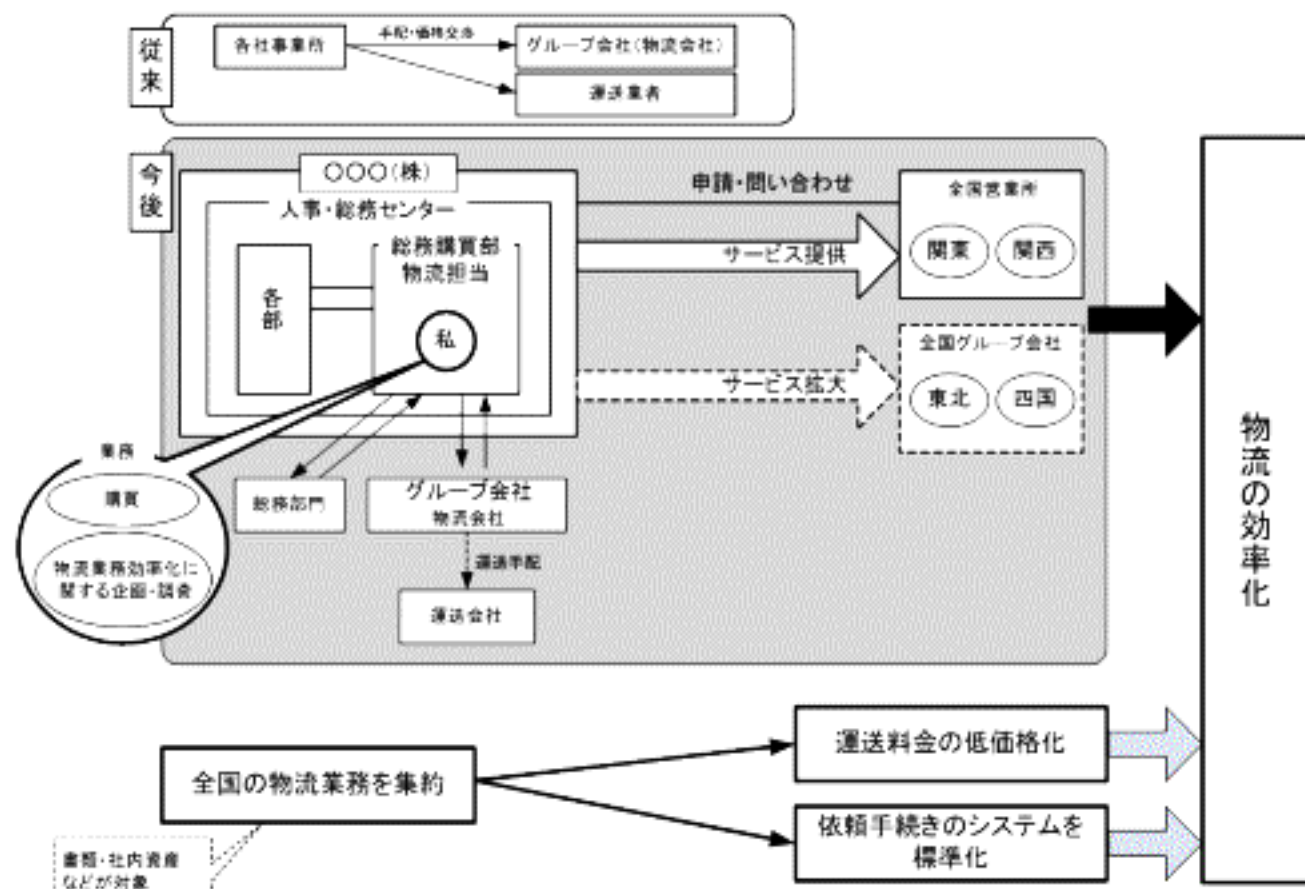
私の仕事図 物流担当の仕事を図解する

大規模な製造会社の物流を担当している人の仕事図です。
目的を明確に表し、流れを描くとわかりやすい図解になります。
その際、自分と周りとの関係、問題点を明確に描くといいでしょう。

大規模な製造会社の人事・総務センターで物流を担当している人の図解です。物流業務の効率化を目指し、コストダウンの企画や調査も行っているようです。従来の方式では各事業所から直接手配・価格交渉をするという流れでしたが、効率化を進めるために人事・総務センターで物流業務を一括で行うという提案をしています。

図の中を整理する
自分に課せられた任務を遂行する際、目標を掲げ、それを達成させるための手段や課題点を図解していくと、現状としていた頭の中の事柄を整理しながら整理することができます。

社内物流業務の効率化



アドバイス
自分が会社に対して果たしている役割や、自分の職務とほかの部門との関係性を図に描きましょう。また、システム図とすることであれば、従来の方式の問題点をはっきり描くことで、改善するポイントが明らかになると思われます。



自分の業務とほかの部門との関係性は？

書類・社内資産などが対象

私の仕事 図解例⑤

私の仕事図 システム開発の仕事を図解する

携帯電話のシステム会社で複数の仕事をしている人の仕事図です。
仕事のプロセスが複雑な場合には図解は最適です。
流れを明確にするために、矢印にコメントを添えましょう。

ソフトウェア開発会社で携帯電話のシステム開発企画とカスタマーサポートを担当している人の図解です。この会社を取り巻いているシステムの下請会社やクライアントである携帯電話のキャリアA社との複雑な関係や、さまざまな行程がいくつもの部署を経由している様子など、図解によって一望することができます。

私の仕事は携帯電話のシステム開発です

仕組みと構造を説明する

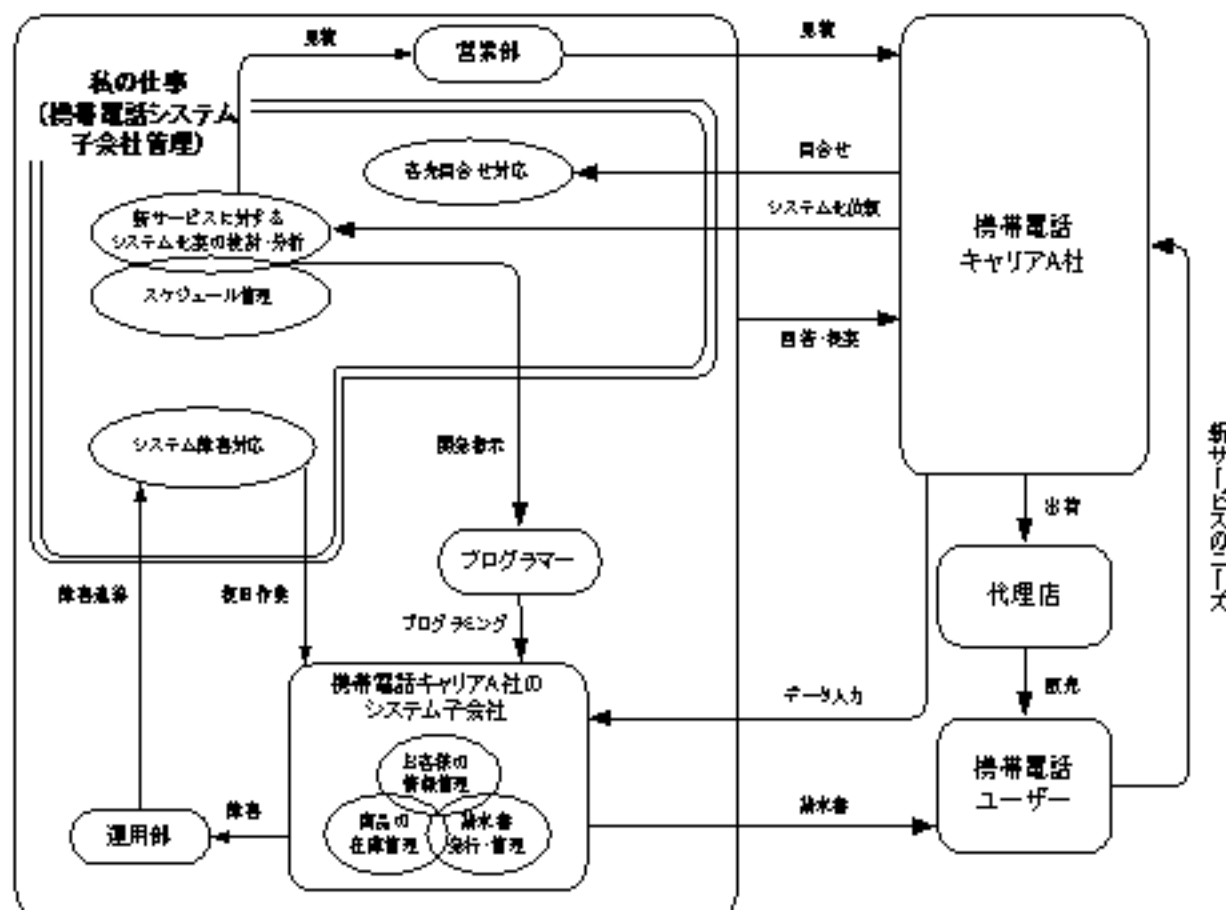
仕事の行程が複雑に組み合っている現場では、どのような構造や仕組みで作業が進行していくのかを説明しておくといくつかの問題が発生した場合に、どの部署でトラブルが発生しているのかなどを簡単に把握でき、迅速な対応に結びつく。

アドバイス

手元の仕事だけではなく、下請会社で行っているか、クライアントの最終顧客が誰かなども常に意識しておくことで、深められている仕事が見えやすくなります。



矢印のコメントで仕事の流れがよくわかる



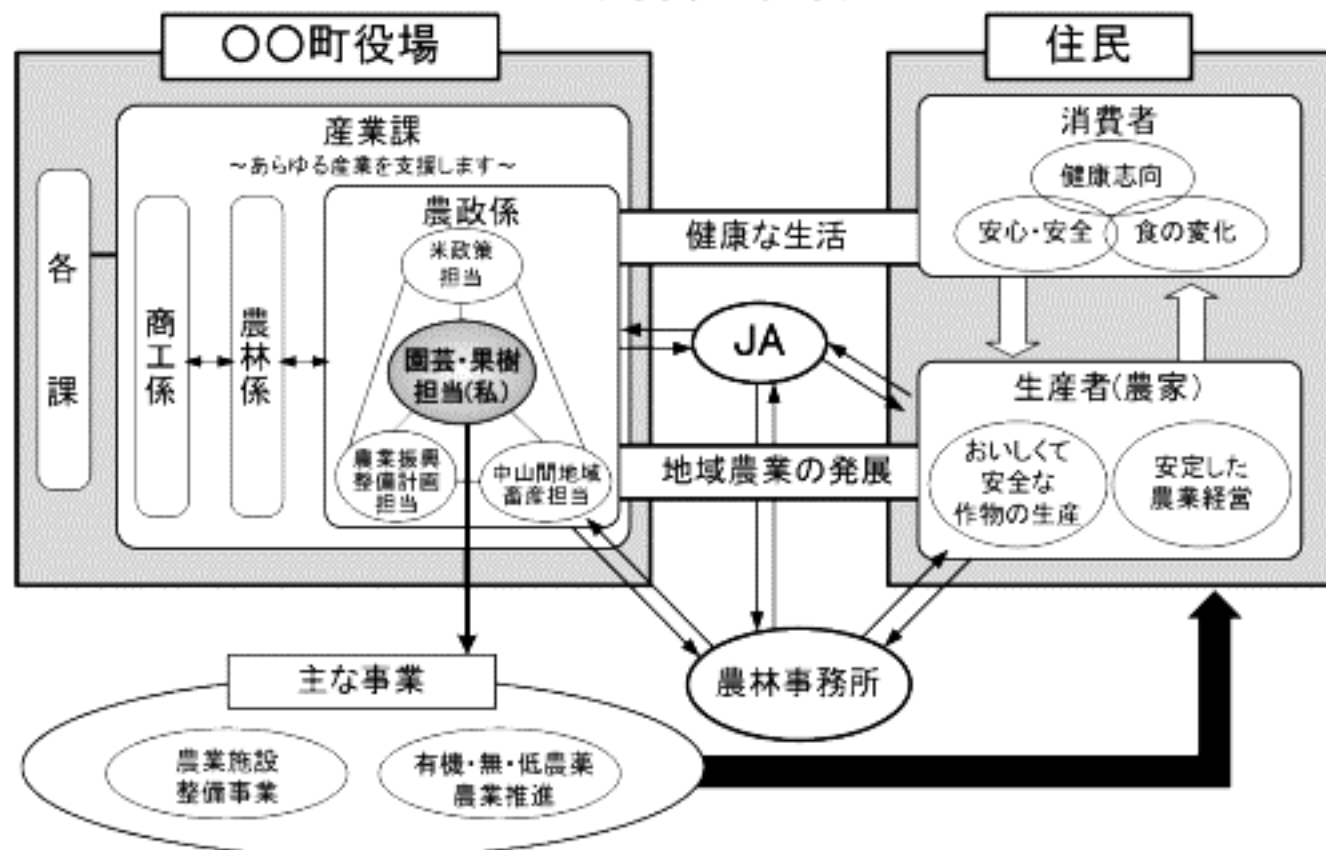
・私の仕事 図解例⑥

私の仕事図 公務員の仕事を図解する

町役場で地域農業の発展に関わる仕事をしている人の仕事図です。町役場と住民が持つ共通の目的を中央に置き、それぞれについて仕事や志向を描いているので、仕事の方向性が伝わってきます。

ある町の産業振興に関わる仕事をしている公務員の図解です。産業課という部署の農政係の中で、園芸・果樹を担当していることがわかります。また、自分が行っている事業を通して、住民である生産者や消費者の支援をしていることも表現しています。

私の仕事 ～地域農業の発展～



「住民」を描く
仕事図には、ビジネスマンの「お客様」と同様に、公務員にとっての顧客である「住民」という要素を描き込む必要がある。仕事を図解するということは、エンドユーザーである顧客が入っていないと、仕事の全体像をつかんでいないことになる。

アドバイス
「～あらゆる産業を支援します～」と書いてありますが、園芸・果樹を担当している「私」が具体的に何を支援しているのか、ひと筆コメントを書く、なおわかりやすいでしょう。



具体的な支援内容を、コメントに書きましょう